

4 - 1 伊豆半島北部の地震活動について(2)

Seismic Activity in the Northern Part of Izu Peninsula (2)

気象庁地震活動検測センター
SAMC, Japan Meteorological Agency

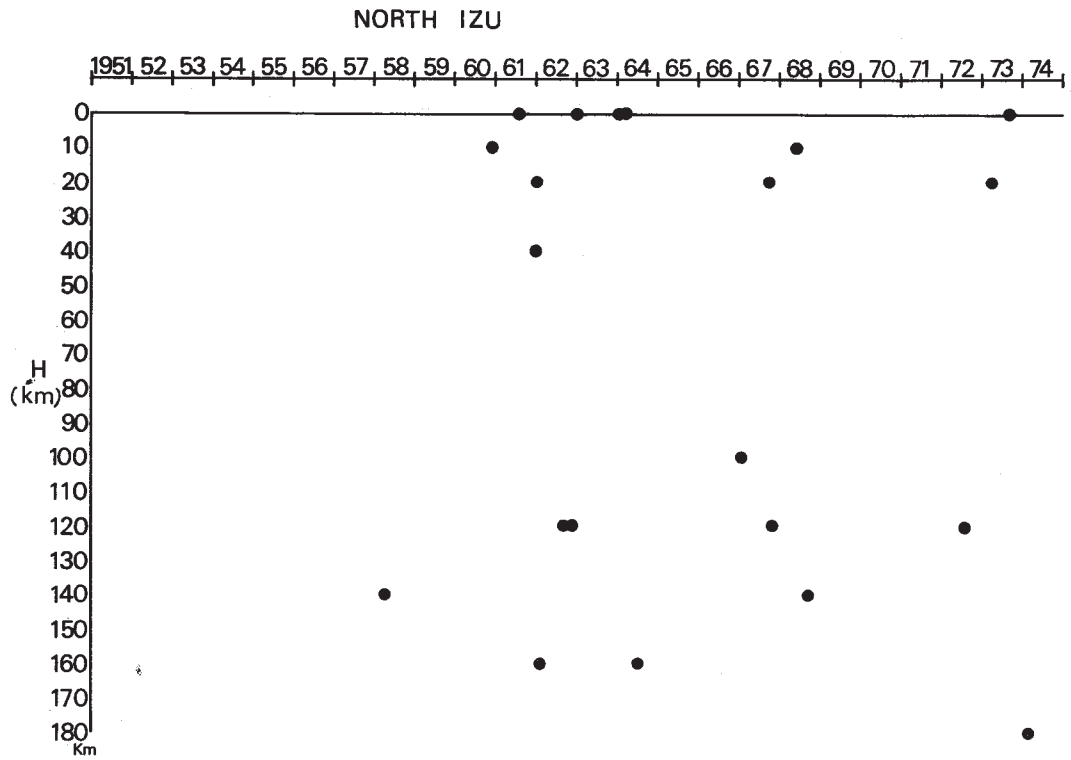
第1図は1951年以後伊豆半島北部（東経138°50'～139°20'、北緯35°00'～35°20'で囲まれた地域を伊豆半島北部とした）に発生した地震の深さ別の発生の変動を表わしたものである。これによると、時間的には1961年以後に地震が多くなっているが、これは電子計算機によって震源が決定されるようになり、小さい規模の地震が決められるようになったからで、地震活動そのものが特に変わってきたわけではない。また、第2図は東西および南北の断面図であるが、この地域の地震の発生は深さ0～30kmと100～200kmに分かれていて、その中間には地震の発生しない所がある。

伊豆半島北部は国土地理院の測量から地盤変動が報告されているので、第2図のサイスミシティを使って関谷（1975）が求めた地震発生前の地殻変動の広がりとの関係を求めてみると第3図となる。これによると、同地域の地盤変動と地震との関係は従来一般的に起こり得る領域に入っている。しかし、同地域は前報でも述べたように大きな地震の前には比較的顕著な前震の発生しやすい所であるが、現在は気象庁の観測網にも神奈川県温泉研究所の箱根山の火山性地震の観測網にも地震は観測されていない。

なお、この調査は東京大学理学部地球物理学教室浅田研究室ならびに神奈川県温泉研究所のご協力に負う所が多い。また、調査の一部は東京海上各務記念財団に援助をあおいだ。

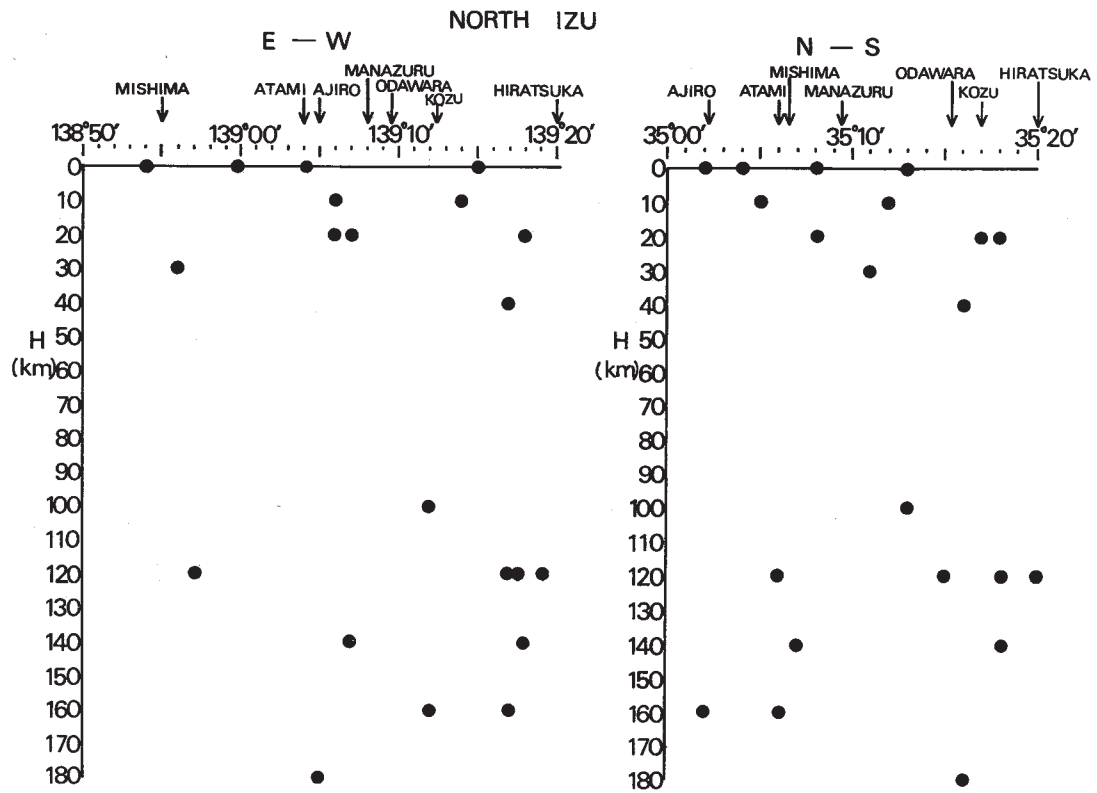
参 考 文 献

関谷 溥（1975）：震源の深さと地殻変動，地震学会春季大会予稿集，143.



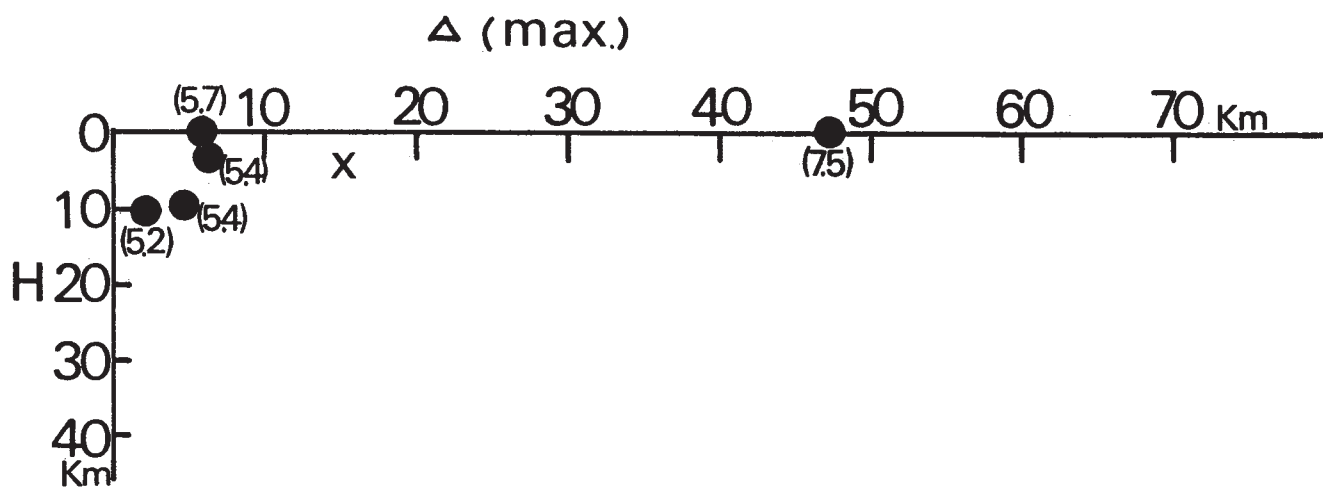
第1図 北伊豆 (E138° 50' - 139° 20' / N 35° 00' - 35° 20') の地震活動の変化

Fig. 1 Variation of seismic activity in North Izu.



第2図 北伊豆の地震の断面図

Fig. 2 Distribution of hypocenters projected on the N-S and E-W vertical planes in North Izu.



第3図 地震発生前の地殻変動の最大震央距離と震源の深さとの関係

Fig. 3 Relation between the maximum epicentral distance of crustal deformation before the earthquake and the depth of fore shocks. (X : North Izu)